

## 応募方法

応募に当たっては、所定の応募書類を作成していただく必要があります。  
応募書類は第9回ものづくり日本大賞応募専用のホームページからダウンロードしてください。  
応募書類の送付先もホームページをご覧ください。

第9回ものづくり日本大賞応募専用のホームページ  
<https://www.monodzukuri.meti.go.jp/>

ものづくり日本大賞



### 応募期間

2021年5月20日(木)～8月31日(火)

※期日までに必着

### ものづくり日本大賞 各ブロック事務局一覧

ブロック	担当都道府県	お問い合わせ先
北海道	北海道	北海道経済産業局 地域経済部 製造・情報産業課 (TEL) 011-709-1784 (メールアドレス) hokkaido-seizojoho@meti.go.jp
東北	青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島	東北経済産業局 地域経済部 製造産業・情報政策課 (TEL) 022-221-4903 (メールアドレス) thk-seizo@meti.go.jp
関東	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、新潟、山梨、長野、静岡	関東経済産業局 産業部 製造産業課 (TEL) 048-600-0313 (メールアドレス) seizou-sangyou@meti.go.jp
中部	愛知、岐阜、三重、富山、石川	中部経済産業局 産業部 製造産業課 (TEL) 052-951-2724 (メールアドレス) chb-seizo@meti.go.jp
近畿	福井、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山	近畿経済産業局 産業部 製造産業課 (TEL) 06-6966-6022 (メールアドレス) kin-seizou@meti.go.jp
中国	鳥取、島根、岡山、広島、山口	中国経済産業局 地域経済部 製造・情報産業課 (TEL) 082-224-5630 (メールアドレス) monozukuri@meti.go.jp
四国	徳島、香川、愛媛、高知	四国経済産業局 地域経済部 製造産業・情報政策課 (TEL) 087-811-8520 (メールアドレス) sik-seizojoho@meti.go.jp
九州	福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島	九州経済産業局 地域経済部 製造産業課 (TEL) 092-482-5442 (メールアドレス) kyushu-monodukuri@meti.go.jp
沖縄	沖縄	沖縄総合事務局 経済産業部 地域経済課 (TEL) 098-866-1730 (メールアドレス) okinawa-monotai@meti.go.jp

#### ■応募書類に関するお問い合わせ先

候補者(グループの場合は筆頭者)の勤務先所在地の都道府県を担当する各ブロックの事務局までお問い合わせください。応募書類提出後の確認や修正に関するお問い合わせにはお答えできませんので、十分にご確認いただいた上でご提出ください。  
受賞者決定前の候補者に関する内容や審査状況に関するお問い合わせには一切お答えできませんのでご了承ください。

#### ■個人情報の取り扱いについて

ご応募いただいた個人情報及びその他の情報は、第9回ものづくり日本大賞に係る審査及び表彰の目的に使用する他、集計による統計資料の作成や、今後のものづくり日本大賞関連事業の推進、事務局からのお問い合わせにのみ使用いたします。

第9回

ものづくり

ものづくりの新しい未来へ

日本大賞



## 第9回 ものづくり 日本大賞 募集開始!

# 新時代のものづくりに 挑戦する人を募集します。

(個人もしくはグループ)

内閣総理大臣表彰「ものづくり日本大賞」は、日本の産業・文化の発展を支え、豊かな国民生活の形成に大きく貢献してきたものづくりを着実に継承し、新たな事業環境の変化にも柔軟に対応しながらさらに発展させていくため、ものづくりの第一線で活躍する各世代のうち、特に優秀と認められる方々を表彰する制度です。

## 概要

ものづくり日本大賞は、下記1~4の4分野において、特に優れた成果をなした個人、グループ等を表彰します。

表彰の対象となる4つの分野のうち、「1. 産業・社会を支えるものづくり①~④」及び「4. ものづくりの将来を担う高度な技術・技能」のうち「③人材育成支援部門」について受賞

候補者の募集を行います。応募のあった候補者の中から受賞者の選考を行い、表彰します。

(※上記以外は既存の各種大臣表彰制度等の受賞者等の中から選考を行います)

### 1 産業・社会を支えるものづくり

- ①製造・生産プロセス部門 ②製品・技術開発部門
- ③伝統技術の応用部門
- ④「Connected Industries—優れた連携」部門

### 2 文化を支えるものづくり

### 3 ものづくりを支える高度な技能

- ①ものづくりの現場を支える高度な技能部門

### 4 ものづくりの将来を担う高度な技術・技能

- ①一般部門（就業者）②青少年部門（学生）
- ③人材育成支援部門

## 受賞を通じ社内外に大きな反響、高い効果

受賞者のほとんどが、いずれかの項目で受賞効果の高さを実感。

※受賞者アンケートより

### 1 受賞者が携わった製品の売上向上

60.8%

### 2 従業員の意欲向上

79.0%

### 3 企業信用力の向上

56.9%

### 4 売上高の増加などの業績向上

42.7%

### 5 マスコミからの取材が増加

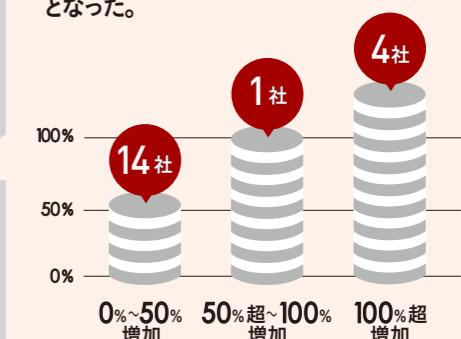
52.8%

### 6 求人・採用面でのメリット

30.1%

### 業績向上に寄与

受賞者の所属企業の4割以上で、受賞前後で売上高が増加。なかでも、数値回答があった19社については以下の結果となった。



## ビジネスチャンス創出、事業拡大に寄与

### 1 内閣総理大臣官邸での表彰式



### 2 ものづくり日本大賞冊子制作



### 3 ものづくり展の実施・出展



こちらから受賞者の紹介動画もご覧いただけます  
<https://www.monodzukuri.meti.go.jp/>



### 人材採用の効果も

受賞者の所属企業の3割以上で、受賞前後で志望者数が増加。



# 第8回ものづくり日本大賞受賞案件を紹介! ~優れた革新性と受賞ポイントを“ひととく”~

「ものづくり日本大賞」受賞は高い志のもとに地道な努力を続けてきたことの一つの証明です。毎回、熱きプロフェッショナルたち

が表彰されています。「第8回ものづくり日本大賞」のいくつかの受賞案件を革新ポイント(受賞 POINT)とともに紹介します。



製品・技術開発部門  
株式会社プラ技研

菊澤 良治 氏  
(設立) 1979年 8月 (従業員数) 41名

## 世界初! 繰ぎ目のないカテーテル製造装置「MIX-mini(ミックス・ミニ)」



MIX-mini  
独自技術で開発! 混合型  
カテーテル製造装置  
世界初! 硬度のグラデーション!

受賞 POINT 従来存在しなかつた繰ぎ目のないカテーテル製造を実現

カテーテルは内視鏡などの低侵襲性医療で利用され、手元が硬く先端にいくほど柔軟な構造。従来は硬さの違うカテーテルをつなぎ合わせていた。プラ技研は複数の樹脂を混合する特殊な金型を作り、世界初となる繰ぎ目のないカテーテル製造装置「MIX-mini」を開発。成形時間は6時間から5分に短縮できる。



製品・技術開発部門  
メロディ・インターナショナル株式会社

尾形 優子 氏、他 6名  
(設立) 2015年 7月 (従業員数) 9名

## 世界中の赤ちゃんとお母さんを見守るプラットフォームとIoT型胎児モニターの開発



メロディ・インターナショナルは病院の据置型胎児モニターを携帯できるまでに小型化。母体の陣痛計と胎児的心拍計、さらにタブレットPCに専用アプリを搭載した、高性能なIoT型胎児モニターを開発した。妊婦が自宅や勤務先で計測して医師にデータを送信することで、遠隔医療装置としても活用できる。

受賞 POINT 時と場所を選ばずに計測可能な分娩監視装置を実現



製造・生産プロセス部門  
ホクサン株式会社

田林 紀子 氏、他 7名  
(設立) 1951年 1月 (従業員数) 201名

## 植物工場を活用した世界初の動物用医薬品原料の生産技術開発



医薬品の製造は動物由来成分から有効成分を精製するのが一般的だが、ホクサンは完全密閉型の植物工場で、動物インターフェロン遺伝子を組み込んだイチゴ

を開発し、2013年にイヌの歯肉炎軽減剤「インターベリーα®」の量産化に成功。従来比で約50~70%の省エネと、1/1000程度の低成本を実現した。

受賞 POINT 医薬品製造プロセスの省エネルギー化と大幅なコスト低減



「Connected Industries—優れた連携」部門  
金剛株式会社

山下 晓 氏、他 6名  
(設立) 1951年 (従業員数) 300名

## MESを中心とした工場システムと生産設備の相互接続による工場IoT化



オフィス・文化施設関連設備の製造・販売メーカーである金剛。2016年の熊本地震で本社工場に大きな打撃を受けたが、2018年には新工場を竣工。その際にMES (製造実行システム)導入を軸に、工場のIoT化を推進した。板金加工では困難だったメーカーの異なる生産設備を連携することで、変種変量生産体制の省人化を実現した。

受賞 POINT 異なるメーカー同士の生産設備を連携し製造ラインを無人化



伝統技術の応用部門  
新潟染工株式会社

金塚 紀之 氏、他 4名  
(設立) 1984年 6月 (従業員数) 140名

## 水泳日本代表水着に採用された撥水加工技術



絹織物技術で染色整理業を展開する新潟染工は、国際水泳連盟認定の競泳水着を合織メーカーと共同開発。供給される生地を目的の伸張回復率に調整したスト

レッチナイロン織物に収縮加工し、撥水性・伸張回復性・発色性を付加。2012年と2016年の五輪大会で日本のメダル獲得に貢献した。

受賞 POINT 絹織物の加工技術応用で優れた撥水性と伸張回復性を実現



人材育成支援部門  
公益財団法人福岡県産業・科学技術振興財団

(設立) 1989年 11月 2014年4月財団法人から  
公益財団法人へ移行  
(従業員数) 70名

## 半導体関連分野で国内最大となるリカレント教育機関「システム開発技術カレッジ」



福岡県産業・科学技術振興財団は2001年に半導体の設計技術者育成を目的とした「福岡システムLSIカレッジ」を設立。2016年には「システム開発技術カレッジ」と改名し、ハードウェアとソフトウェアを両軸にした技術教育を実施。豊富な演習機材による実践的な講義を行い、これまでに養成した技術者は延べ2万人を超えた。

受賞 POINT 新しい技術に応える教育プログラムでのものづくり人材を育成

